

神奈川・北条泰時・時頼邸跡

1 所在地 神奈川県鎌倉市雪ノ下

2 調査期間 一九八四年(昭59)二月～三月

3 発掘機関 北条泰時・時頼邸跡発掘調査団

4 調査担当者 馬淵和雄

5 遺跡の種類 中世都市

6 遺跡の年代 一三世紀前半～近世

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

北条泰時・時頼邸跡は、鎌倉市街地を南北に縦断する若宮大路の北端、鶴岡八幡宮の前面(南面)東側に位置する一辺約二〇〇mの方



(横須賀)

形の地域である。一九八四年に当地域の若宮大路沿いの一角において店舗併用住宅建設が計画されたため、神奈川県及び鎌倉市が、吉田章一郎氏を団長とする発掘調査団に発掘調査を委託した。調査では若宮大路側溝と思われる大溝を二条検

出し、三点の木簡はこのうちの東側溝下層から出土した。東側溝下層の年代は、他の出土遺物からみておおむね一三世紀に比定できる。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「一丈伊北太郎跡」 242×38×7 051

(2) 「一丈南くいの井の四郎入道跡」 (285)×34×6 019

(3) [] (106)×23×1.5 019

(1)と(2)は溝底に貼り付いた状態で出土し、「伊北太郎」「くいの井の四郎入道」は人名、「跡」はその子孫の意であると思われる。

9 関係文献

馬淵和雄「中世鎌倉若宮大路側溝出土の木簡」『日本歴史』四三九号 一九八四年)

北条泰時・時頼邸跡発掘調査団『北条泰時・時頼邸跡―雪ノ下一

丁目三七一一番地点』(鎌倉市教育委員会 一九八

五年)

石井進「鎌倉から出土した最初の木簡」『日本

歴史』四四九号 一九八五

年) (馬淵和雄)

